

平成30年度 青梅市自治会連合会 新任自治会長研修

事例報告

「第8支会の取組 ～学校と地域の連携推進～」

「地域への感謝の気持ち」を子供達に伝えていく



1 はじめに

※ 人的資源(子供の教育)が日本の宝

※ 山上憶良(奈良時代)

「銀(しろがね)も金(くがね)も玉(たま)も
なにせむに優れる宝 子にしかめやも」



・藩校・寺子屋・・・江戸時代

寄り合い

自分達で課題を解決(寺子屋の先生も寄り合いで決める)

• 学制発布(明治5年)・・・明治時代

寄り合い→国としての教育へ

•学制発布(明治5年)・・・明治時代

現在の第8支会(東青梅地区)では

明治6年6月1日小学校創立届

蒲慮学舎(上師岡村)

•設置場所・・・光明寺

•男女合計・・・63名

•備金・・・・・・・・220円

寄り合いを生かす

・昭和26年4月5日

青梅市立第四小学校

9教室において

2部制の授業開始

寺子屋・明治の学制発布 戦後の教育改革



「おらが学校」の意識熟成

学校と地域の連携の礎

2 今日、なぜ、学校と地域の連携が強く求められるのか？

子供たちの置かれている(環境等)主な実態

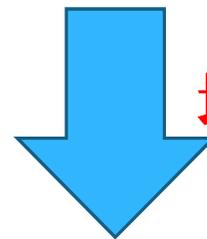
- 豊かな環境で生活している。
- 情報機器の活用等が優れている。
- 情報分析・活用が優れている。
- 人との関わりが薄らいでいる。
 - ・ 家庭の核家族化
 - ・ 近所との関わりの低下(自治会加入率の低下)
 - ・ 子供会の解散
 - ・ 情報化の発展による体験不足 など

○人との関わりが薄らいでいる。

- ・ 家庭の核家族化
- ・ 近所との関わりの低下(自治会加入率の低下)
- ・ 子供会の解散

寄り合い文化の瓦解⇔豊かな生活の実現

昭和30年代半ば 高度成長(人口の都市集中化)
情報の一極化(テレビ)



地域での関わりが弱くなる

あいさつや隣近所の助け合いが減少する
地域での課題を解決する姿勢

子供たちが生きていくこれからの社会



知識基盤社会
(高度情報化社会)



**今よりももっと人間関係が
希薄になりやすい状況**

子供達が知識基盤社会で 求められる能力(力)とは？

OECD(経済協力開発機構)が
1997年から6年間をかけたプロジェクトを通じて
3つの基本となる能力を提起

「社会に参画するために必要な手段を相互作用的に活用する能力」

「多様なグループにおける人間関係形成能力」

「主体的行動する能力」

教育基本法(平成18年12月改正)

(学校、家庭及び地域住民等の相互の協力)

第十三条

学校、家庭及び地域住民その他関係者は、
教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚
するとともに、相互の連携及び協力を努める
ものとする。

子供たちが生きる知識基盤社会
に向けての対応として



～学校と地域の連携推進～
が一層強く求められる

「地域への感謝の気持ち」を
子供達に伝えていく取組

3 第8支会での ～学校と地域の連携の実際～

(1) 平成27年度 防災訓練の見直し

- ① 平成27年度8月の第8支会防災訓練に
中学生の参加を宮口 泉支会長より
第8支会に関わる中学校、
第一中学校、泉中学校、
霞台中学校、吹上中学校の
校長先生にお願いします。

中学生がおよそ60名参加する。

中学生の訓練での活躍

- 避難所設営時、段ボールで居住のための仕切りづくり訓練
- 炊き出し訓練
- 中学生の真剣な取り組みに参加者が感動する。
- この取り組みに平素から感受性の強い中学生と連携をとることの大切さを学んだという意見がでる。



炊き出し訓練に中学生が参加

避難所設営
ダンボールで居住場所設営



② 青梅市自治会連合会井上一雄会長から
岡田芳典教育長に出された要望書を確認
する。

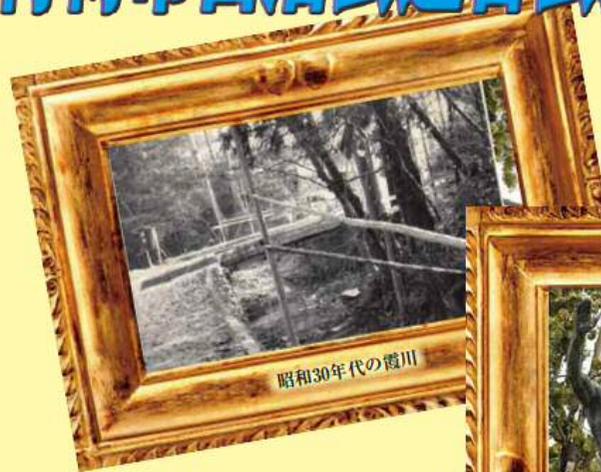
- 自治会連合会各支会ならびに各自治会が実施する防災訓練に係る小・中学生との相互連携および児童・生徒・保護者への参加をお願いしたい。
- 入学予定者の就学時健診診断の実施の際に、対象児童の保護者に対し、自治会案内チラシ等の配布をお願いしたい。

(2) 平成28年度

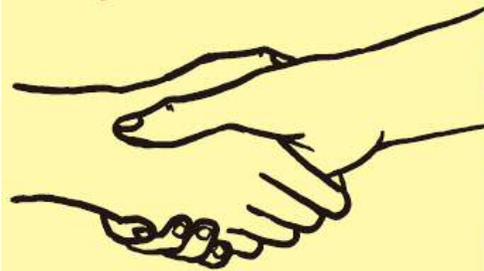
第八支会創立50周年を契機に 「学校との連携」を推進する

- ① 中学生の積極的参加の推進について
平成27年度の中学生の防災訓練での活躍を得て、
他分野でも積極的な参加を推進を図ることになった。
- ② ①に基づき、5月に第8支会に関わる学校、
四小、吹上小、霞台小、河辺小、一中、泉中、吹上
中、霞台中の各校長先生方と懇談会を持った。
・この時に第8支会50周年記念の取組み「ささえあい
フェスティバル」に児童・生徒の作品を提出していただく
ことになった。
- ③ 防災訓練は台風による暴風雨のため中止となる。

青梅市自治会連合会第八支会



昭和30年代の霞川



平和の像

創立50周年記念誌

昭和41年第八支会発足

④ 「子供たちに調べた歴史や文化」を伝えたいという意見が出る

- ・「青梅市自治会連合会第八支会創立50周年記念誌」を苦勞して作成した16人の自治会長(第8支会16自治会)から誰云うともなく



「子供たちに調べた歴史や文化」を伝えたいという意見が出る。



平成29年度に検討することでまとまる

(3) 平成29年度 「学校と地域の連携」の一層の推進

- ① 5月に第8支会に関わる校長先生方と「地域と学校の連携」推進についての懇親会を開催
 - ア 第8支会「ささえあいフェスタ」に作品の提供をお願いします。
 - イ 各学校の「引き渡し訓練・避難訓練」を自治会長が参観させていただく。
(日程の関係で四小、泉中・霞台小(連携型引き渡し訓練)、一中、霞台中を参観させていただく。)



霞台小学校での引き渡し訓練

自治会長が見学する



② 8月17日(木)第八支会「子供たちに地域の歴史と文化を伝える会」発足

※ 小学校部会実行委員

井上一郎 東青梅3丁目自治会長

高野惣一 師岡町1丁目自治会長

小澤佑一 根ヶ布自治会長

小野憲治 旭ヶ丘団地自治会長

池田政次 多摩団地自治会長 ◎

(◎印・・・まとめ役)

※ 中学校部会実行委員

村木徳昭 東青梅1丁目自治会長

井上教之 東青梅4丁目自治会長

野崎康嗣 師岡町丁目自治会長

杉藤哲郎 グイリーンサイド東青梅4丁
目自治会長

宮口 泉 第8支会支会長◎

(◎印 まとめ役)

③ 第八支会 「子供たちに地域の歴史と文化を伝える会」実施

- ・初めての試み「子供たちに地域の歴史と文化を伝える会」第8支会管内にある学校、第四小学校(則末久美子校長) 霞台中学校(青山 隆志校長)にお願いすることになった。そして了解をいただく。

④ 霞台中学校における 「子供たちに地域の歴史と文化を伝える会」開催の様子

ア 開催日 平成29年12月4日(月)
午後1時30分～午後2時20分

イ 会場 霞台中学校 体育館

ウ 内容

- ・青梅市の歴史の概要(杉藤哲郎自治会長)
- ・青梅市の経済的発展(宮口 泉支会長)
- ・青梅大祭について(自治会連合会第1支会長)
- ・青梅市の町の数について(井上敬之自治会長)
- ・農地から市街地整備よもやま話(野崎康嗣自治会長)

※ 本日は発表の関係で詳細を省略します。



霞台中学校での授業風景

第1支会長による青梅大祭の説明



⑤ 第四小学校における

「子供たちに地域の歴史と文化を伝える会」開催について

ア 開催日 平成29年12月5日(火)
午後1時45分～午後2時30分

イ 会場 第四小学校 視聴覚室

ウ 内容

- ・開会あいさつ (1分)
- ・則末久美子校長先生あいさつ(1分)
- ・発表者等紹介(2分)
- ・「東青梅地区の歴史のあらまし」(8分) 池田政次自治会長
- ・虎柏神社「御殿入り祭」(5分) 数野勝美虎柏神社総代長
- ・第8支会よもやま話(12分) 高野惣一自治会長
- ・日本の代表的な伝統行事(10分) 井上一郎自治会長
- ・子供たちからの・意見・感想(3分)
- ・閉会のことば(1分)

第四小学校の授業風景



よもやま話の説明



⑥ 発表内容の構成

※ 「第8支会・東青梅地区の歴史のあらまし」



永山丘陵・霞丘陵
(加治丘陵)

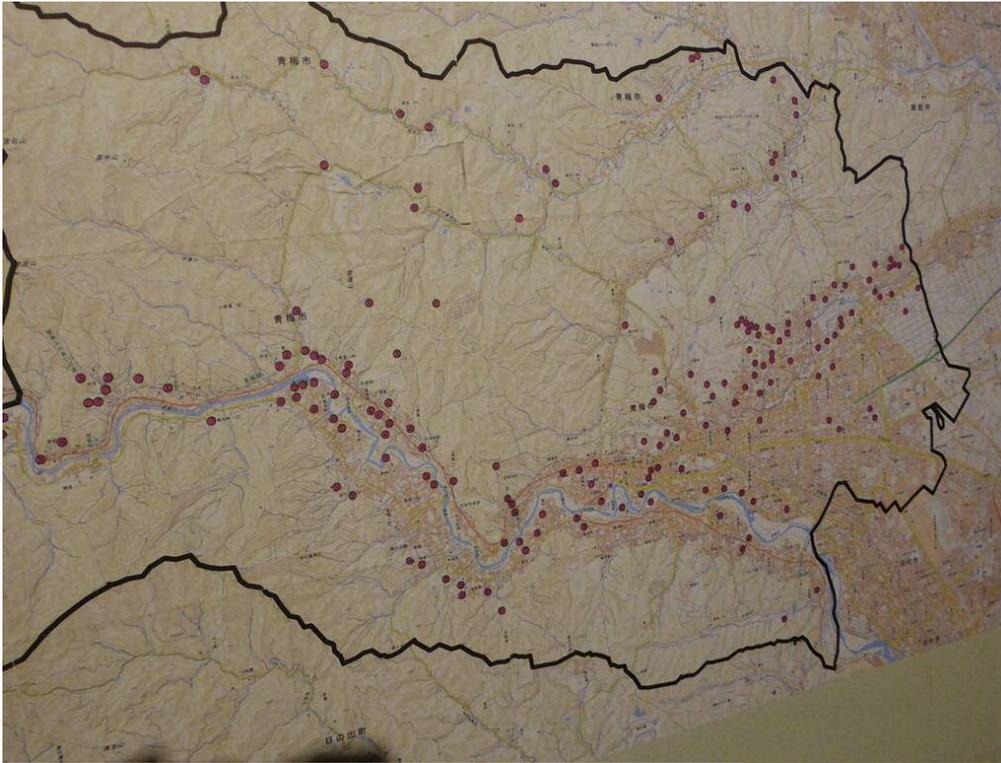
現在の第8支会地域が
平和に暮らしている様
子



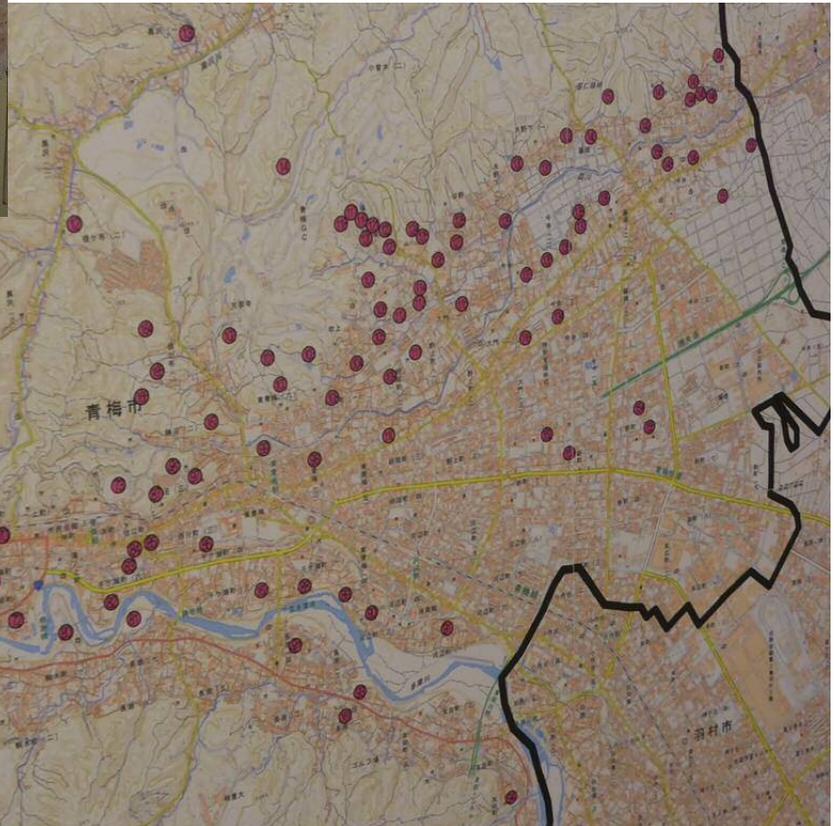
四小から見た霞川



木野下から見た霞川



青梅の遺跡出土場所



霞川流域の遺跡出土場所

郷土博物館資料より

旧石器時代(岩宿時代)

ゆきまがさき
倭林遺跡
所在地 青梅市平井二丁目付近
主な時代 縄文時代前期

倭林遺跡は、青梅市平井二丁目付近に存在する縄文時代前期の遺跡です。
縄文時代の前期は、約1万5000年前から約7000年前まで続いた時代です。
この時代には、石製(磨製)時代から縄文時代、古銅器時代、鉄器時代にかけての遺物も出土しています。
この遺跡からは、土器や石器、土偶などの遺物も出土しています。

じょうがさき
城ヶ崎遺跡
所在地 青梅市藤橋二丁目付近
主な時代 旧石器時代～中世

城ヶ崎遺跡は、青梅市藤橋二丁目付近の露川南岸に存在する旧石器時代から中世までの複合遺跡です。
今までに第4次にわたる調査が行われ、旧石器(岩宿)時代の槍先形尖頭器製作ブロック3ヶ所のほか、古墳時代後期の住居跡1軒を出土しました。

じょうがさき 城ヶ崎遺跡

所在地: 青梅市藤橋二丁目付近
主な時代: 旧石器時代～中世

城ヶ崎遺跡は、青梅市藤橋二丁目付近の露川南岸に存在する旧石器時代から中世までの複合遺跡です。
今までに第4次にわたる調査が行われ、旧石器(岩宿)時代の槍先形尖頭器製作ブロック3ヶ所のほか、古墳時代後期の住居跡1軒を出土しました。



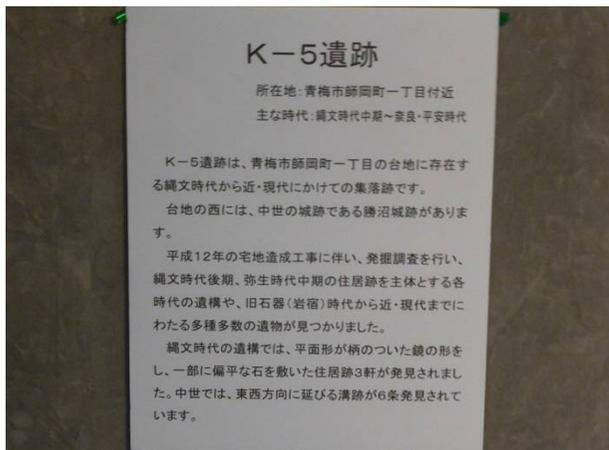
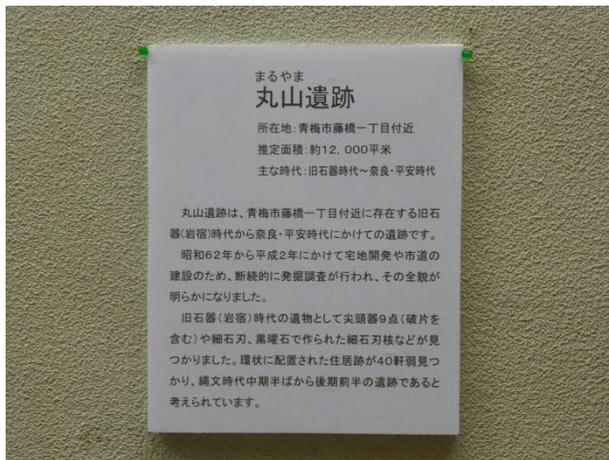
はくへん 剥片

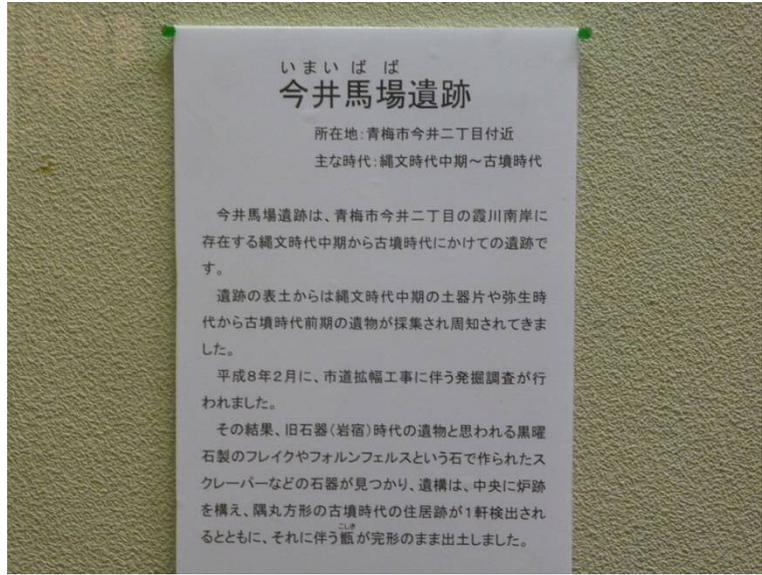
旧石器(岩宿)時代
今井馬場遺跡出土
母岩の端をや周辺を打ち欠いて薄く剥ぎ取ったもので、石器に加工したりそのまま使用したりします。

やりさきがたせんとうき 槍先形尖頭器

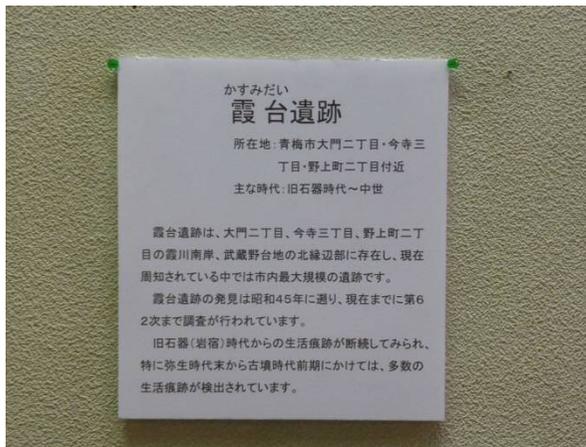
旧石器(岩宿)時代
城ヶ崎遺跡出土
槍先形の石器で木の柄につけて使われたと考えられています。







郷土博物館資料より



郷土博物館資料より

ふじはししろ こし
藤橋城の腰遺跡

所在地: 青梅市藤橋二丁目付近
主な時代: 縄文時代～奈良・平安時代

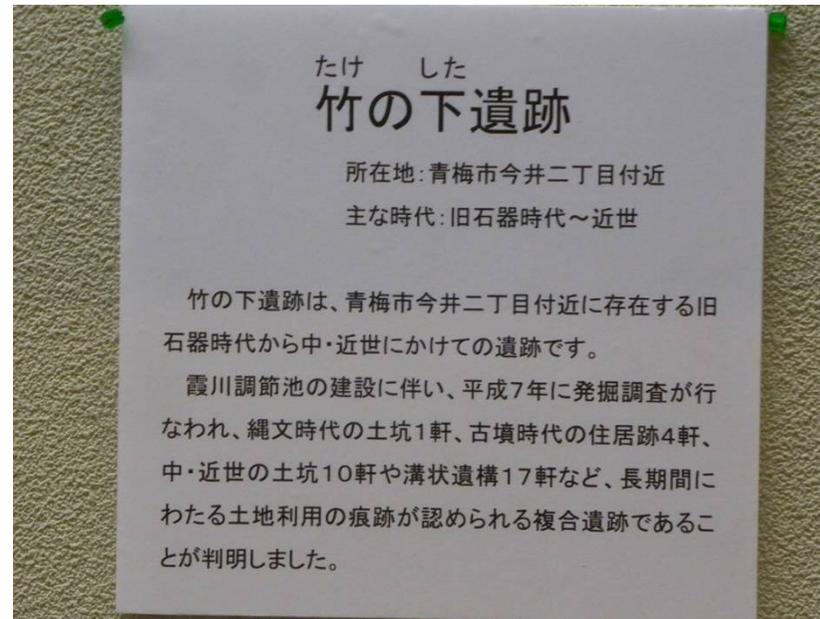
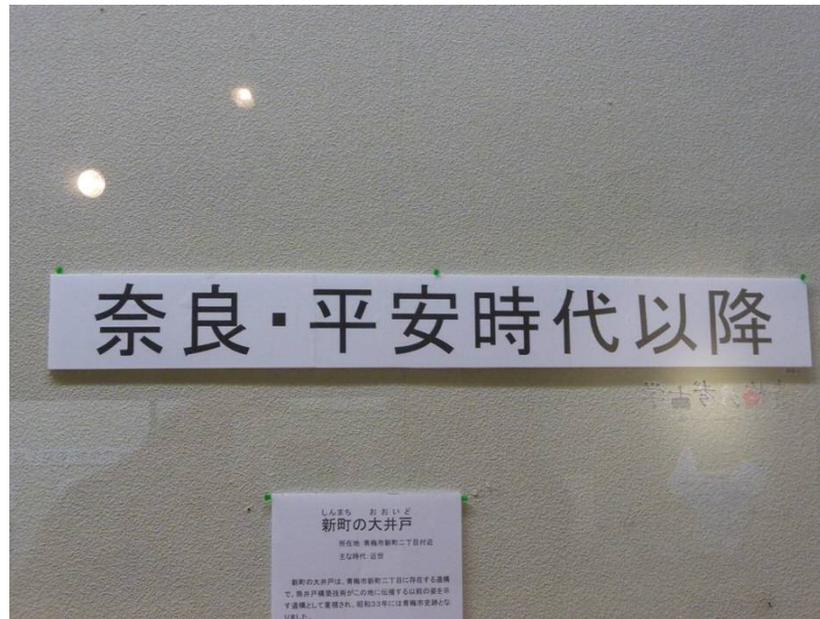
藤橋城の腰遺跡は、青梅市藤橋二丁目の霞川南岸の台地上に存在する縄文時代から奈良・平安時代にかけての遺跡です。

これまでに4次にわたる発掘調査が行われ、古墳時代の住居跡、溝跡、土坑や柱穴が検出されました。

遺物は、古墳時代の土師器、鉄器、土製品などが発



郷土博物館資料より



郷土博物館資料より

東青梅地区のキーワード
「山」「川」



そまのほ 杣 保

- ※ 青梅を中心とした関東山地の東麓（山の東側の麓）^{とうろく} ー帯は、鎌倉時代あたりから「杣保」と呼ばれていたようです。
- ※ 「青梅歴史物語」青梅市教育員会編より引用

杣保(そまのほ)

そまのほ 杣 保

そま
杣・・・国分寺や国府といった大きな施設をつくったり、維持するために必要な山林資源を供給する地域の呼び名。

保・・・一種の行政単位で、杣の地の一定の範囲を示す。

※「青梅歴史物語」青梅市教育委員会編より引用



勝沼城(師岡城)

※ 虎柏神社「御殿入り祭」

* 八月二十六日に行われる「御殿入り祭」

* 朝日の仮屋前に参集した参列者に対して暗闇の中で神職がその名前と役職を読み上げるところから始まり、名前を呼ばれた奉仕者が神職から幣束・

神宝類を受取り、祭主を

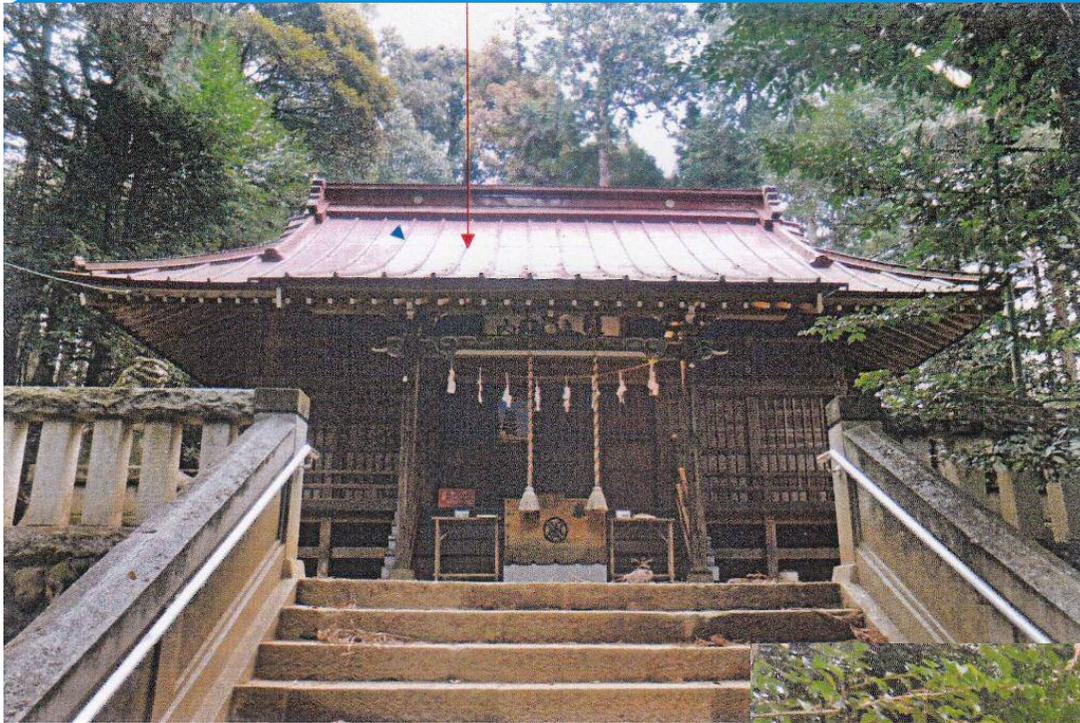
先頭に参列者全員が神

歌を唱和しながら社殿

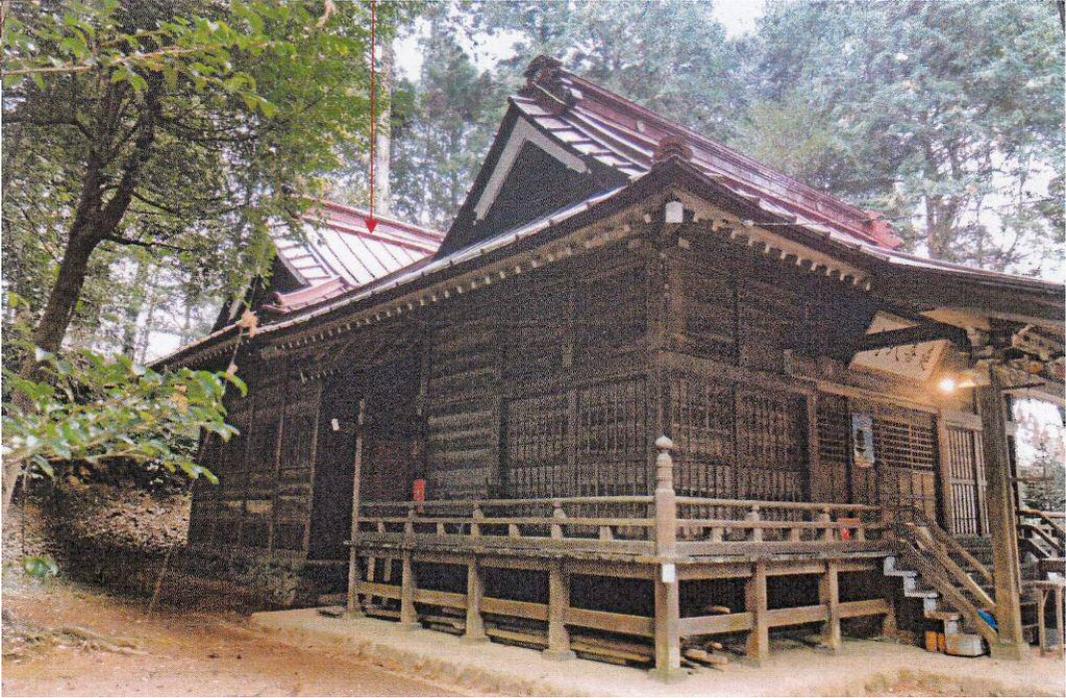
の周囲を右回りに三周

までの行事。

・東京都指定無形民俗文化財



虎柏神社





御殿入り祭



※ 第八支会 よもやま話

よもやま話





霞村土地宝典

(個人所藏)



勝沼城の説明



塩船観音寺



春日神社



勝沼神社



住吉神社



六万公園と青梅マラソン

霞川



暴れん坊霞川の改修



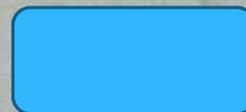
⑦ 子供たちの感想から

皆様、あの時は本当に感謝をこめて
ありがとうございました。
皆様のおかげでぼくの歴史の心に火
がつきました。特に、木山保は興味
を持ちました。木山は転じて意味があり、
保は一つの意味があるからです。これも皆様
のおかげです。ありがとうございました。

先日は、地域の歴史と文化について
お話してくださりありがとうございました。
た。

四小の目の前にある、身近な大塚山のこ
とを、自分自身全く知りませんでした。自
分の地域のことを知るのは大事なことだと
思えました。お殿入り祭や、音の四小付近
のことも初めて知りました。

文化のことも、説明が分かりやすく、大変
勉強になりました。楽しかったです。



⑧「子供たちに地域の歴史や文化を伝える会」 を終えての反省

- ア 「地域への感謝の気持ち」を子供達に伝えられた。
- イ 伝える内容に比べて発表の時間が少なかった。
- ウ 児童・生徒が興味を非常に強く持ったので、子供たちが自分たちで自主的に調べることができる時期を。

(4)平成30年度 「学校と地域の連携」の一層の強化

① 第8支会役員会および関係小中学校懇親会開催

ア 期日 平成30年6月26日(火)

イ 趣旨 第8支会では「地域と学校の連携」を強化することで第8支会の活動の活性化および児童・生徒の見守りや、「地域で児童・生徒を育てていく ことを目標とする。」

ウ 具体的な活動および協力依頼

- ・東青梅市民センター文化祭と同時に「ささえあいフェスティバル」を開催(10月27日(土)28日(日))への児童・生徒の作品依頼。

- 青梅市防災総合訓練(9月2日(日)東青梅市民センター体育館)に生徒が参加することで、地域住民の防災意識の向上を図る。
- 第8支会運動会(10月14日(日)於第四小学校)へ放送係などに生徒の参加。
- 「子供たちに地域の歴史と文化を伝える会」2年目の開催
自治会長と委員が講師となり「地域の歴史と文化」を伝える。四小と霞台中で7月に実施する。
- 「地域の歴史と文化を伝える会」の開催を四小、霞台中以外の学校から募集(2学期以降)

4 故郷、地域・学校・

家庭で培った心(感謝の心)で
子供たちが世界で羽ばたく

和魂グローバル才

現在の子供たちが後期高齢者になる時！！

時代は22世紀を目前となる

その時の社会は？

研ぎ澄まされた知識基盤社会

特に「多様な社会グループの
人間形成能力」

「地域への感謝の気持ち」を
子供達に培うこと
が求められます。

そのためには
「家庭」
を取り巻く環境である
「学校」と「地域」が
連携・協力することが重要になります。

第8支会「子供たちに地域の歴史や文化を伝える会」の取組みが

子供たちの心に「豊かな人間性」の基礎として染み渡り、大人から学んだ心、第8支会（東青梅地区）の郷土を知り郷土を大切に思う心（和魂）として染み渡ると確信します。

6 終わりに

会えば……………知人

話し合えば……友人

苦勞を共に共有して乗り
越えて……………仲間

将来を背負う子供たちに
「学校と地域の連携・推進」を図り
一步一步「仲間」としての
努力をして参りましょう

ご清聴ありがとうございました

平成30年7月1日

於 青梅市役所2F会議室

報告者

青梅市自治会連合会第八支会

副支会長 池田 政次

(多摩団地自治会長)